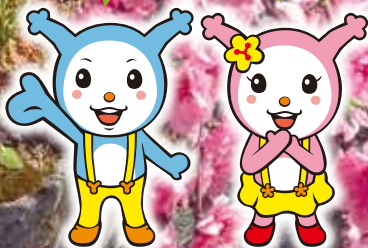


吉野川市

# 議会だより

う～～ん  
いいにおいやなあ～



吉野川市公式キャラクター  
ヨッピー・ピッピー



議会HPは  
こちらから確認!

## 令和8年3月議会定例会

令和8年度予算について.....	2
審議結果一覧.....	3
委員会審査.....	4
代表質問.....	9
個人質問.....	13



# 今年度の税金の使い道が決まりました

～令和8(2026)年度予算案を全て可決～

令和8年2月24日に開催された本会議において市長より令和8年度の各予算案が提出されました。

予算案は各常任委員会に付託し、審査され、令和8年3月18日開催の本会議において、すべての予算案が全会一致で可決されました。

(委員会での質疑の内容は4～6ページをご覧ください。)

一般会計予算	207億5,000万円
特別会計予算	115億9,270万4千円
企業会計予算※	39億5,060万5千円
<hr/>	
合計当初予算額	362億9,330万9千円

※企業会計は収益的支出及び資本的支出を基準に算出

区 分		令和8(2026)年度	令和7(2025)年度
一 般 会 計		207億5,000万円	213億6,500万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	45億1,697万6千円	44億7,753万2千円
	介 護 保 険	62億342万4千円	60億242万1千円
	後 期 高 齢 者 医 療	8億7,230万4千円	7億8,146万1千円
企 業 会 計※	水 道 事 業	13億1,878万6千円	13億3,797万1千円
	下 水 道 事 業	26億3,181万9千円	27億942万円

※企業会計は収益的支出及び資本的支出を基準に算出



令和8年3月議会定例会

# 議案の審議結果

付託先の略称

- 即 決…本会議で審議
- 総 務…総務常任委員会で審議
- 文教厚生…文教厚生常任委員会で審議
- 産業建設…産業建設常任委員会で審議



付託先	議 案 名	結 果
専 決	即決 専決処分の報告について(和解について)	報告
	即決 専決処分の報告について(和解について)	報告
	即決 専決処分の報告について(和解について)	報告
条 例	総務 吉野川市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市の議会の議員及び長の選挙における選挙公報の発行に関する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市実費弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	総務 吉野川市環境施設整備基金条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	文教厚生 吉野川市子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	文教厚生 吉野川市長寿祝金支給条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	文教厚生 吉野川市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	産業建設 吉野川市環境保全条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
	産業建設 吉野川市企業立地促進条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
予 算	総務 専決処分の承認を求めることについて(令和7年度吉野川市一般会計補正予算(第6号))	原案可決
	総・文・産 令和7年度吉野川市一般会計補正予算(第7号)について	原案可決
	総務 令和7年度吉野川市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)について	原案可決
	総務 令和7年度吉野川市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	原案可決
	文教厚生 令和7年度吉野川市介護保険特別会計補正予算(第4号)について	原案可決
	総・文・産 令和8年度吉野川市一般会計予算について	原案可決
	総務 令和8年度吉野川市国民健康保険特別会計予算について	原案可決
	総務 令和8年度吉野川市後期高齢者医療特別会計予算について	原案可決
	文教厚生 令和8年度吉野川市介護保険特別会計予算について	原案可決
	産業建設 令和8年度吉野川市水道事業会計予算について	原案可決
産業建設 令和8年度吉野川市下水道事業会計予算について	原案可決	
そ の 他	総務 損害賠償の額の決定について	原案可決
	総務 吉野川市過疎地域持続的発展計画について	原案可決
	産業建設 市道路線の認定について	原案可決
	産業建設 市道路線の変更について	原案可決
人 事	即決 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同意
	即決 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同意
	即決 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同意
	即決 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同意
	即決 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同意
	即決 副市長の選任について	同意
	即決 固定資産評価員の選任について	同意
	即決 教育長の任命について	同意
発 議	即決 吉野川市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例制定について	原案可決
意見書	即決 外交努力により中東地域の早期事態収拾を求める意見書	原案可決

## 委員会審査

3つの常任委員会において付託された議案の審査を行いました。主な審査内容を抜粋して掲載しています。審議結果の一覧は3ページをご確認ください。

### 総務常任委員会

◇市長提出議案16件を審査

●吉野川市の議会の議員及び長の選挙における選挙公報の発行に関する条例制定について

**問** 選挙公報の配布方法について、新聞購読をしていない世帯には、どのように周知するのか。市のホームページやSNSでの周知は可能なのか。

**答** 選挙公報は、新聞配達業者と契約して配布する予定である。新聞を購読している世帯は、新聞折り込みで、購読していない世帯には、ポストに投函することで対応する予定である。

また、条例の規定に基づき市役所その他適当な場所に選挙公報を備え置くほか、市のホームページにも掲載予定である。

●令和8年度吉野川市一般会計予算について

**問** 令和8年度末の市債残高は、前年度比で約15億円減少する見込みであり、財政状況は改善している。そこで財政調整基金等のあり方についての市の考えは。

**答** 中・長期的な視点に立ち、持続可能な財政基盤を確立するためには、市の借金である借入金の現在高を減らすとともに、財政調整基金についても最低でも現在の規模を確実に確保していくことが重要であると考えている。

**問** 市民提案型まちづくり推進事業の現在の活用状況は。

**答** 交付実績は、令和6年度が5団体、令和7年度が2団体となっている。内容は、川島町の歴史を盛り込んだ写真集の発行やオプスタクルスポーツの普及振興、健康寿命を延伸するためのフレイルチェック事業など多岐にわたっている。補助金交付を受けた団体は、現在も活動を継続しており、地域課題の解決や活性化につながっているものと考えている。

今後、地域課題や行政課題の解決につながるよう、本事業を進めていきたい。

**問** 市代替バスについて、停留所を増設することは可能なのか。

**答** 利用者の声を聴き、可能な場所については増設したいと考えているが、関係機関に内容を登録する必要があるため、確認してからの対応となる。



### 文教厚生常任委員会

◇市長提出議案7件を審査

●吉野川市子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について

**問** 子どもはぐくみ医療費の無償化について、適正受診の周知が必要だと考えるが。

**答** 無償化の新たな受給者証を9月に送付する際に、過度な受診などについての注意喚起となるような文書を同封するなどして周知を図る。

また、無償化開始まで、市のホームページや広報よしのがわなどで

啓発する。

●令和7年度吉野川市一般会計補正予算(第7号)について

**問** ひとり親家庭等への給付金事業の給付対象児童数と給付の時期は。

**答** 対象児童は406名で、給付金総額は812万円である。

給付時期は、4月末または5月上旬を予定している。

●令和8年度吉野川市一般会計予算について

**問** 子どもはぐくみ医療費が、令和8年10月診療分から無償になるが、当初予算額が前年度予算額より減額となった理由は。

**答** 令和6年度から県の医療費助成が拡大され、子どもの入院にかかる医療費が無償となるなど、医療費増加の要因があったことから、令和7年度当初予算では1億7000万円の予算を組んだ。

しかし、令和6年度、令和7年度の医療費は、以前のように月平均1100万円程度で推移していることから、近年の医療費実績を基本とし、加えて、先に無償化を開始している自治体の医療費の伸

び率を参考とするなど、精査した結果、令和8年度当初予算の医療費は、前年度比1400万円の減少となった。

**問** 西麻植小学校区に新設される放課後児童クラブ「西麻植ほたるクラブ」の事業開始時期は。

また、西麻植小学校区以外の児童は利用可能なのか。

**答** 令和8年4月1日からを予定している。

校区外の児童の受け入れについては、放課後児童クラブの制度上は可能であるが、本市に19カ所ある放課後児童クラブは、全て保護者会などの民間が運営しているため、安全な送迎や受け入れ体制など、それぞれ異なることから、校区外の児童の受け入れは、直接問い合わせさせていただき決定している。

●令和8年度吉野川市介護保険特別会計予算について

**問** 認知症予防啓発事業について、タブレットを活用し、市内43カ所で開催する「コグエボ」の詳細は。

**答** コグエボは脳のリハビリテーションから生まれた認知機能のチェックとトレーニング

を同時に行うことができるとゲーム感覚のICTツールである。

楽しみながら手軽に認知機能別トレーニングと認知機能チェックができ、正答率だけでなく作業時間も測定することで、認知機能の軽微な変化に気づくことができ。コグエボでは、記憶力・注意力・計画力・空間認識力・見当識を数値化し、その結果により必要な支援や医療につなげることができ

自身の状況を把握して、健康寿命の延伸を実現し、自分らしい暮らしを続けることを目的として取り組んでいきたい。



**産業建設常任委員会**

◇市長提出議案8件を審査

●吉野川市環境保全条例の一部を改正する条例制定について

**問** この条例改正は、開発許可を厳しくするものなのか。

**答** 盛土規制法と本市の環境保全条例において規制の対象が重複となったものを、今回条例から削除するために改正を行うものである。

●吉野川市企業立地促進条例の一部を改正する条例制定について

**問** 条例の事業所に、農業・林業を追加する理由は。

**答** 現在、高齢化や人手不足により遊休農地が増加しており、国の方針として農地の大規模化や集約化が進められている。

農業・林業は地域に密着した重要な産業であり、農業・林業を条例対象に加えることで、地理的特性や自然資源を活用した産業振興が図られる。

これにより、新たな事業所の設立や投資を誘致し、地域経済の活性化や雇用創出が期待されるだけでなく、最新技術や資金の導入によって生産性の向上や効率化が進む可能性がある。

こうした取り組みは、従来型の営農や林業が直面する課題の解決につながり、地域の特性を活かした地方創生に寄与すると考えている。

●令和8年度吉野川市一般会計予

算について

**問** ワンコイン浸水センサの現在の設置場所は。

**答** 鴨島町中島の諏訪神社北側、ダイソー徳島鴨島店北

**問** 樹木・保全業務委託料について、市内公園の植樹等を行うとのことだが、対象は新しく植えるものだけなのか。

**答** 植樹や保全活動などが対象である。

**問** 吉野川市買い物支援等対策事業補助金について、何件の予算なのか。

**答** 移動販売を行う事業者を対象に交付するものであり、移動販売等の事業運営費補助金として1件あたり4万円を計上し、2件分計8万円を予算化している。

また、車両購入費用補助金として100万円を予算計上している。

**問** ふるさと納税の令和7年度および令和8年度の見込み額は。

**答** 令和7年度は1億2000万円に迫る見込みであ

り、令和8年度は1億6000万円を予算計上している。

●令和8年度吉野川市水道事業会計予算について

**問** 毎年水道管の布設替えを行っているが、管路の総延長を考慮すると、全て布設替えを行うには相当な年月を要する。

さらに、管には耐用年数があるため、耐用年数を過ぎた老朽管が新たに増えてくるが、今後どのように対応していくのか。

**答** 管路の更新について、吉野川市の管路耐震更新計画を策定しており、管路の物理的評価、市民生活・地域経済への影響を総合的に考慮して、更新の優先順位を設定している。

この計画に基づき、管路の更新と耐震化を効率的に進めたい。

**問** 今後、給水人口が減少し、さらなる水道料金の値上げも必要になってくるかと思うが、10年、20年先の水道経営についてどのように考えているのか。

**答** 人口減少に伴い、施設の統廃合、管路の規模縮小等を考えなければならない時期が近い将来くるが、当面の間は新たに策定した吉野川市水道事業ビジョン

・経営戦略に基づき、効率的・効果的な水道経営を行いたい。

●令和8年度吉野川市下水道事業会計予算について

**問** 下水道事業について、令和7年度以降は公共下水の新たな拡張は行わず、維持管理のみとなるが、今後の経営をどのように考えているのか。

**答** これまで住民サービスの向上を目指して、公共下水の普及に取り組んできたが、多くのランニングコストを要していた。

県全体として、大規模な設備投資を伴う事業を進めてきたが、今は方針転換し合併処理浄化槽に個別接続をしていただくようになって

いる。

今後は、今以上に財政的な負担がかかり住民サービスの低下につながることもなく持続的な経営が行えるよう検討を進めたい。



### 議員提出議案

●吉野川市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例制定について

提出議員 細井 英輔

異議なしで原案可決

●外交努力により中東地域の早期事態収拾を求める意見書

提出議員 岡田 光男

異議なしで原案可決

### 人事案件

◇次の人事案件が提出され同意しました。

●人権擁護委員

伊藤 昭仁

(鴨島町西麻植)

吉永 正雄(鴨島町牛島)

住友 利行(山川町季邦)

井上真由美(山川町建石)

鈴木 正友(川島町児島)

●副市長

黄田 隆史

(徳島市中昭和町)

●固定資産評価員

黄田 隆史

(徳島市中昭和町)

### 議会のつぎぎ(12月～2月)

12月

3日 阿南市正副議長あいさつ

19日 議会運営委員会

25日 徳島中央広域連合議会

1月

9日 議会広報特別委員会

15日 議会運営委員会

全員協議会

20日 鳴門市正副議長あいさつ

29日 会派代表者会

2月

10日 議会運営委員会・議会広報特別委員会合同視察

(徳島市・小松島市)

16日 議会運営委員会

全員協議会

24日 阿北火葬場管理組合議会

定例会

阿北特別養護老人ホーム

組合議会定例会

## 令和8年第1回臨時会 審議結果一覧

	付託先	議案名	結果
予算	即決	令和7年度吉野川市一般会計補正予算（第5号）について	原案可決

### 議会運営委員会・議会広報特別委員会 合同視察

令和8年2月10日 徳島市議会・小松島市議会

議会運営委員会・議会広報特別委員会で、議会運営についての合同視察を行いました。

- 議会の情報発信（議会動画配信、議会だより等）
- タブレット端末を活用しての議会運営
- 請願・陳情の取り扱い



徳島市



小松島市

### 行政視察受入状況

- 令和8年3月26日

埼玉県鴻巣市議会 明誠会

吉野川市環境センター  
について



## ここが聞きたい

# 一般質問

誌面の都合により要旨のみを掲載しています。  
●の質問を中心に取り上げました。

3月議会定例会では10名の議員が一般質問を行いました。

### 代表質問

#### 細井英輔(薫風会)

- 令和8年度当初予算について
- 吉野川市子ども計画について
- 子どもはぐくみ医療費助成事業の完全無償化について
- 高校生への支援について
- 鴨島東中学校と鴨島第一中学校の統合について
- 企業誘致について
- 水道料金改定について

#### 阿佐勝彦(吉野川政友会いろは)

- 北海道仁木町との交流について
- 新年度予算について
- 六次産業化の推進について
- 消防団詰所の改築について
- 吉野川市子ども食堂運営費補助金について
- 学校給食について

#### 谷田憲二(真誠会)

- 過疎地域の活性化について
- 公立認定こども園の状況について
- 不登校支援について
- 老朽水道管について
- 難聴者支援について
- 林野火災対策について

#### 近久寛(芳藍麻植会)

- 財政運営について
- 廃校施設の利活用について

### 個人質問

#### 相原一永

- Lアラートの運用について
- 不登校児童生徒の欠席中の学習成果の評価について
- 人生会議(ACP)普及啓発について

#### 中西渉

- 子ども施策と高齢者施策のバランスについて
- 不登校に対するネット出席制度の今後の展開について
- 小1ギャップをなくすための接続教育のあり方について

#### 塩田智子

- こどもの居場所づくり事業について
- おたふくかぜワクチン予防接種費用の一部助成について
- 子どもはぐくみ医療費助成事業の拡大について

#### 栗原五男

- 地元高校存続と県立高校のあり方について
- 窓口受付時間の見直しと働き方改革について
- 中心市街地活性化について
- マルシェの取り組みについて
- 地域おこし協力隊について
- 観光対策について
- ふるさと納税について

#### 戸出敏夫

- 人口減少対策について
- 高齢者介護・医療について
- 南海トラフ地震への備えについて

#### 岡田光男

- 物価高対策について
- 特定健康診査について
- 国民健康保険について
- 多文化共生社会について
- 鳥獣被害対策について
- 子どもはぐくみ医療費助成事業について



ほそい えいすけ  
細井英輔  
薫風会

**問** 鴨島東中学校と鴨島第一中学校の統合に向けた準備状況は

**答** 令和9年4月の統合に向け、各種調整項目について滞りなく準備を進めていきたい

鴨島東中学校と鴨島第一中学校の統合に向けた準備状況について、校歌や校章など決定しているものはあるのか。また、鴨島東中学校の跡地利用について、地元の意見を聞きながら検討していく必要があると考えるが、防災面において活用する考えは。

**答** 校歌の歌詞フレーズおよび校章のデザインのアイデア募集を行った結果、校歌の歌詞が56件、校章デザインが26件であった。統合準備委員会で協議した結果、校歌については、アイデアをもとに専門の方に制作を依頼し、それぞれの中学校に縁のある音楽家を候補とし打診している。校章については、アイデアをもとに選考した結果、新しい制服のワッペンデザインの両校のスクールカラーを引き継ぐとともに、鴨の翼や学校名のインシヤルもイメージされているこ

**問** とから当該ワッペンのデザインを校章とすることに決定した。令和9年4月の統合に向け、各種調整項目について滞りなく準備を進めていきたい。施設の利活用について、現在具体的な検討には至っていない状況である。まずは、地域の方の意見を聞き、防災の観点も含め、広く検討していきたい。

**答** これまでに実施されたアンケートや説明会において、部活動に関する意見が多かった。毎年、鴨島東中学校地区から、部活動を理由に指定校変更により一定数の生徒が鴨島第一中学校に入学している。保護者からも統合前から、統一チームを結成してはとの声もあつたと思うが、統合準備委員会において、統合後の部活動の種目や統合前の連携について、どのような方針なのか。

**問** チームとなる時点から統一チームとして活動を開始できるように準備を進めることとした。文化部は、令和9年4月から合流となるが令和7年度に実施した合同コンサートなどの交流を通して、引き続き統合に向けた連携を深めていく。今後も、部活動を含めたあらゆる場面で交流機会を設け、生徒たちの新しい学校生活が円滑にスタートできるよう努める。

**答** 令和8年度当初予算についての市長の思いは。今後、公共施設の長寿命化対策や自然災害に対応した防災・減災対策の強化など、本市の重要政策課題に対して的確に対応するため「行財政改革プラン2024」を着実に実行しながら、本市としての最適解を追求し、持続可能な市政運営に取り組む。

**問** 吉野川市子ども計画策定の進捗状況は。

**答** パブリックコメントを実施し、いただいた意見を踏まえ、令和7年度中の策定に向け進めている。

**問** 小中学校の給食費が無償化となるが、高校生に昼食費補助を行う考えは。

**答** 本市の子育て支援施策のさらなる充実を目指すなかで、今後検討していきたい。

**問** 企業立地促進奨励金等の交付実績は。

**答** 本市発足以降、5件の申請があつたが、条件を満たさなかつたため、交付実績は1件にとどまっている。

**問** 水道料金の急激な料金改定は利用者の生活に大きな影響を与えるため、激変緩和措置を導入しては。

**答** 今後、条例改正案の中で十分検討する。



阿佐勝彦  
あさかつひこ  
吉野川政友会いるは

**問**

北海道仁木町との交流を再開しては

**答**

仁木町の意向を十分尊重し、交流再開の可能性や方法を検討する

**問**

北海道仁木町とは、旧川島町時代の昭和49年5月

に、姉妹町盟約を締結し、交流を深めてきたが、吉野川市発足時に姉妹町盟約は解消となった。仁木町は、天保5年に、麻植郡児島塚の善人寺島で藍製造を業としていた家に生まれた仁木竹吉（にきたけよし）が、明治7年吉野川の水害に苦しむ流域の農民の窮状・惨状を救済するために北海道移住を決意して移民団を創設し、明治13年3月6日に仁木村が設置され、現在に至っている。

この度、私たちの会派は、仁木町との交流再開について、議員一人一人に賛同署名を呼びかけ、8割近い議員の賛同を得て、先般、市長に議員有志の意思を伝えた。

そこで、仁木町とのこれまでの経緯についてどのように認識しているのか。また、交流を再開する考えを問う。

**答**

仁木町との交流事業は途絶えているが、先人たちが築かれた歴史や文化を学び、次世代に伝えていくことは重要と認識している。現在も、広報誌の相互送付や公式ホームページの相互リンク、オンラインによる児童間での交流学習をきっかけに、令和6年8月には町制60周年記念事業の一環として、仁木町の子どもたちが本市を訪問された。この訪問は大変意義深いものである。

令和8年2月24日に仁木町との交流再開に賛同された議員の署名をいただいた。貴重な意見として真摯に受け止め仁木町の意向を十分尊重した上で交流再開の可能性や具体的な方法について検討する。



**【その他の質問】**

**問** 学校給食費の無償化の財源は。また、有機農産物を取り入れては。

総額約1億5300万円

**答**

に対し、小学校の給食費は国が新たに創設した「給食費負担軽減交付金」約8300万円を活用する。

有機農産物について、可能な範囲での取り組みを検討するとともに、協力いただける生産者の確保に努める。

**問**

有利な市債について、本市の活用の現状は。

**答**

地方交付税措置の高い地方債の活用を前提とし、当該年度の元金償還額以下となるよう発行額を抑制することを基本とした。

予算執行段階においても費用対効果などについてしっかりと検証し最少の経費で最大の効果が発揮される取り組みを進めていく。

**問** 六次産業化の推進について、本市の現状と今後の方針は。

**答**

六次産業化加工施設補助金の実績は、令和6年度は5件の176万4000円、令和7年度は1件の45万2000円で現在1件の問い合わせを受けている。

**問**

消防団詰所改築の現在の状況と今後の予定は。

**答**

山川地区において、まずは山川方面第4分団の詰所を2年計画で改築を行うこととし、残りの詰所についても過疎債などの有利な財源を活用しながら改築していく。

今後とも、防災力強化のため消防団員の活動拠点となる詰所の改築事業を計画的かつ着実に進めていく。



谷田 憲二  
たに だ けんじ  
真誠会

**問**

吉野川市過疎地域持続的発展計画の実効性を高めていくための今後の方針は

**答**

計画に盛り込んだ取り組みを着実に実施し、地域が持続的に発展する基盤を構築していく

**問**

令和8年度から令和12年度までを期間とする「吉野川市過疎地域持続的発展計画」が新たに策定された。

本計画が、地域の実情を十分に踏まえ、将来に希望を持って暮らし続けられるような具体性と実効性のある計画となっていくことが重要である。

これまでの課題を踏まえ、どの分野に重点を置いた計画なのか。また、地域住民や関係団体と連携を図り、計画の実効性を高めていくために今後どのように取り組むのか。

**答**

本計画は、人口減少が進む過疎地域に指定されている、山川・美郷地区の資源を最大限に活用し、地域住民の生活環境の向上を目的としている。計画の主な内容は、農林業活性化のため、大規模圃場整備や林道を開設するほか、Mt. 高越ヒルクライムや中山間交流拠点施設「たねのや」などの地域

資源を活かし、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を目指す。

また、地域住民の生活環境の向上を目指し、交通弱者の移動手段の提供に努め、子育て支援や教育環境の充実による若い世代の定住促進、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる医療・福祉のさらなる向上を図る。さらに、地域おこし協力隊を積極的に活用し、地域課題の解決をより効果的に進める。

今後の方針は、地域の誇るべき財産を効果的に活用し、単発的な取り組みではなく持続可能な発展につながるよう地域づくりを行うことが重要であると認識している。また、防災啓発活動や災害対応訓練の充実を図り、住民一人一人の防災意識を高めることで、地域全体の災害対応力を向上させる。

これらの取り組みを着実に実施し、地域が持続的に発展する

基盤を構築していく。

**【その他の質問】**

**問** 保育現場の業務効率化をどう進めていくのか。

**答** 登降園管理機能や保護者とのコミュニケーション向上に連絡帳機能などが付いたICTシステムを導入し、連絡体制の強化や効率化を図る。

**問** 不登校支援について、メタバースを活用した新たな支援方法を検討しては。

**答** 本市を含む広域での取り組みや県への要望等について検討する。

**問** AI等のデジタル技術を活用し、効率的な水道管管理を検討しては。

**答** 新技術は非常に有効であると捉えており、現在、調査研究を進めている。

**問** 難聴者支援について、高齢者補聴器購入費助成事業の内容と社会福祉課窓口に設

置している骨伝導イヤホンの利用状況は。

また、窓口サービス向上のため、話した言葉を即座に文字化できる支援アプリなどを導入しては。

**答** 本市の65歳以上で所定の条件を満たす方に、最大3万円を助成する。

骨伝導イヤホンは、非常に聞き取りやすいと好評なため、他課での活用も視野に入れている。

支援アプリは、円滑なコミュニケーションの実現が期待されるため、今後、窓口業務での導入効果などを調査し、経費面も含めて検討したい。

**問** 林野火災に備えて関係機関との連携が重要であるが、今後どのように取り組むのか。

**答** 関係機関が共同で訓練を実施し、消火活動の専門的技術の習得や現場での効率のよい操作技術の向上を図る。



近久 寛  
ちか ひろし  
芳藍麻植会

**問**

今後の財政運営の方針は

**答**

限られた財源を賢く使うことを強く意識し、持続可能な行財政基盤の確立に取り組む

**問**

現在の社会経済情勢は、少子高齢化と人口減少が進行している。本市においても、少子化を食い止めるため、さまざまな取り組みを進めているが、現状では成果が十分に表れているとは言い難い状況である。

こうした中、いわゆる「3割自治」と言われる本市の財政においては、歳入の根幹である地方交付税や市税収入の減少が懸念される。財政調整基金や減債基金からの繰り入れが常態化し、持続可能な財政運営への不安が高まってくる。

一方、歳出面では社会保障費などの義務的経費の増加に加え、少子化対策、防災・減災対策、公共施設の老朽化対策など、将来に向けて不可欠な投資的経費の増加が避けられない。

今まさに10年後、20年後を見据えた中長期的な視点に立った財政運営が必要であり、将来世

代に過度な負担を残すことなく、持続可能な地域社会を築くためには今からの備えと戦略的な判断が求められる。将来を見据えた財政運営が重要だと考えるが、当初予算の編成状況と今後の財政運営の方針は。

また、持続可能な行財政基盤の確立に向けてどう取り組むのか。

**答**

令和8年度当初予算額は、207億5000万円、前年度比6億1500万円、率にして2.9%の減となった。歳入では、主要な財源である市税において前年度比1.8%の増収を見込み、17年ぶりに約40億5000万円を計上した。

しかし、市税、地方交付税とも国の地方財政計画における伸び率を下回る状況となり、令和8年度当初予算は、財政調整基金および減債基金から7億8000万円を繰り入れ編成した。

歳出については、公共施設の長寿命化対策や防災・減災対策

の強化などを行う。

少子化対策については、学校給食費無償化や子どもはぐくみ医療費完全無償化などを行う。

そのほか、人件費、扶助費、公債費の義務的経費は、現下の長期金利の上昇などの影響により、総額で約117億2000万円となっている。

投資的経費は、国の補正予算を最大限活用することとし、教育施設整備事業費を3月補正予算に前倒ししたことにより、前年度比38.5%減の約8億8000万円としている。

今後の財政運営方針については、国の地方財政対策の動向や社会経済情勢を的確に捉え、まずは当初予算に計上した財政調整基金と減債基金の基金繰入金7億8000万円を最終的にゼロにできるように取り組んでいく。

その上で引き続き、行財政改革プラン2024を着実に実施

**【その他の質問】**

**問**

旧上浦小学校における通信制高校開設計画を見直すことになった経緯と今後の利活用は。

**答**

県内の通信制高校を取り巻く環境が大きく変化したことや新たな学校設置に必要な教育サービスの提供体制を確保することが難しいことから白紙となった。

引き続き、校舎の利活用についての打診を受けているため、地域の方々の意見を伺いながら、今後の利活用方法を検討する。

※EBPM：経験や勘ではなく、データや合理的根拠に基づいて政策を立案すること



あいはら なが 相原 一永

**答**

**問**

文部科学省が示す評価の三要件について、どのように整理し学校現場に指導していくか

先進自治体に習い、研究が必要であると考えている

**問** 学校教育法施行規則が改正され不登校児童生徒が欠席中にを行った学習の成果を文部科学大臣が定める一定の要件の下で成績評価に反映できることが、法令上明確になったが、文部科学省が示す評価の三要件について、どのように整理し、学校現場に指導しているのか。

**答**

文部科学省の示す要件に照らして評価するよう指導しているが、市としての基準を示すには至っていない。ガイドラインを示すことにより学校間格差を小さくし、評価に反映することへのハードルを下げられるという点で価値があると考ええる。一人一人異なる状況にある児童生徒の多様な学びを妨げないような基準について先進自治体に習い、研究が必要であると考えている。

**問**

先進自治体の調査を進めることだが、どの自治体を参考にし、どのような観点で研究を進めるのか。

**答**

評価反映の事例やオンライン学習実績がある福岡市などの調査研究を進める。

研究の観点では、学習状況をどう

確認しているか、教育支援教室をどう活用しているか、ICTを活用した学習状況の把握をどのように行っているかについて研究する。

次年度は、これらの調査研究に合わせ、本市にあった評価の在り方や不登校児童生徒の学ぶための環境整備について検討し、早期のガイドライン策定を目指していく。

**【その他の質問】**

**問**

県外では避難情報の「アラート」への入力遅れや誤配信で、混乱を招いた事例があるが、本市の体制は。

**答**

情報発信の際、入力内容を職員が相互に確認し、二重チェックをし、正確な情報をいち早く伝達できる体制にしている。

**問**

若い世代・働く世代への人生会議のアプローチを、どのように強化していくのか。

**答**

SNSを活用するなど広報媒体の工夫により幅広い世代に情報が届く方法を検討し、普及啓発を強化する。



なかにし わたる 中西 渉

**答**

**問**

小1ギャップをなくすための継続教育の今後の充実・強化は

架け橋期の教育・保育の充実を図り、子どもの学びや生活の基盤を育む

**問**

小学校入学後に、授業中に落ち着かない、話を聞き続けることが難しいなど、いわゆる「小1ギャップ」が指摘されている。

幼児教育と小学校教育のつなぎ目を設計する接続教育が重要であると思うが本市の現状と保幼小の連携体制、スタートカリキュラムの考えは。

**答**

学校からは、入学当初に生活リズムや集団での学習の進め方について戸惑う児童が見られるとの報告はあるが、個々の発達の差や環境変化に伴う自然な過程でもある。

本市では令和7年度から「幼小架け橋期連携協議会」を設置し、市内6地区でも園と小学校が連携し、保育観察や園と学校の情報交換、小学校体験入学などを行っている。

支援が必要な児童には加えて、特別支援教育コーディネーターを交えた引き継ぎや相談ファイルを活用した個別情報の共有などを行い、入学前から子どもへの理解を深めている。

小学校1年生においては、スタートカリキュラムのもと生活科を中心とした体験的学習、学習環境や指示の工夫など、段階的に学校生活へ適

応できるように配慮している。

今後引き続き、架け橋期の教育・保育の充実を図り、小1ギャップの解消を目指すとともに、子どもの学びや生活の基盤を育んでいく。

**【その他の質問】**

**問**

高齢者福祉・健康づくり・介護予防の現状評価と子ども施策とのバランス、多世代が支え合うまちづくりの具体化は。

**答**

介護予防教室を市内43カ所で行い、フレイルチェック事業や第9期高齢者保健福祉計画に基づいて住民福祉の向上に取り組んでいる。多世代が互いに支え合う、地域社会の構築を目指していく。

**問**

不登校児童生徒がオンラインで学習し、出席扱いとなった事例を踏まえ、学習環境の選択肢を広げるためのネット出席制度の今後の方向性は。

**答**

これまでの事例の検証と学校現場の意見の把握を進めながら基準の提示を含め、今後調査研究を進めていく。



塩田 とも子

**問**

子どもD.O.まんなか会議でも以前から意見が多かった「こどもの居場所」について、この度、市民プラザ1階カルチャーギャラリーに自習室が開設されることとなった。

開設される自習室の受け入れ可能人数は、また、他市から本市の中学校や高校に通っている子どもたちも大勢いるが、利用対象者は、本市に住民登録がある子どもだけなのか。自習室内の安全安心な管理運営を、どのように考えているのか。

**答** 自習室の一度に受け入れ可能人数は26人を予定している。利用対象者は、小学生から高校生までとし、本市の住民登録は要件としない。開設時間は、午前10時から午後8時までとする。自習室以外にも、1階エントランスに円卓と椅子を増設する。これは、子どもの自習に限定するものではなく、施設内に「こどもの居場所」となるスペースの拡大を図るものである。増設する円卓などは、自習室を開設する夏休みおよび冬休みだけではない。

**答**

市民プラザ内に開設される自習室の受け入れ可能人数と利用対象者は26人を予定しており、小学生から高校生までで本市の住民登録は要件としない

**問**

常設するので、自習以外にも多くの来館者にご利用いただけるスペースにすることで、施設全体的な利便性向上にもつながるものと考えている。自習室の管理運営については、施設の指定管理者が行うこととしており、受付前に自習室があることから、スタッフの目も届きやすく、万が一トラブルなどの際には、直ちに対応できるものと考えている。

さらに指定管理者と協議を深め、子どもが快適に利用できる居場所となるよう進めていく。

**問**

「その他の質問」

**問** おたふくかせワクチン予防接種費用を一部助成する考えは。任意接種として実施されているが、国による定期接種化に向けては副反応のリスクも含めて慎重な検討が進められているため、国や県内の状況を注視していきたい。

**問** 大学世代まで子どもはぐくみ医療費助成対象とする考えは。まずは、子どもはぐくみ医療費完全無償化が持続可能で安定した制度となるよう取り組む。

**答**

まず、子どもはぐくみ医療費完全無償化が持続可能で安定した制度となるよう取り組む。



栗原 五男

**問**

少子化の進行により、県立高校の再編や統廃合が議論されている。仮に地元高校が縮小・統廃合された場合、若者の流出や定住人口の減少、さらには中心市街地や地域コミュニティの衰退など、本市全体に大きな影響を及ぼすことが懸念されるが、高校再編が本市や、児童生徒に与える影響をどう考えるか。

県立高校の統廃合等が行われた場合、本市が地元高校との連携を通じて推進してきた地方創生に向けた各種取り組みや、地域経済に影響するものと考えられる。また、教育を身近な地域で選択しづらい状況になり、児童生徒や保護者の不安が大きくなること等の影響もあると考えている。こうした影響を最小限に抑えるためには、地元高校の存続が重要であり、本市としてもその必要性を強く認識している。

**答**

本市の児童生徒が自らの適性や進路に応じた学びを身近な地域で選択しやすい環境を確保する必要があると考えている。

**問**

高校再編が本市に与える影響は地元高校の存続が重要であり、その必要性を強く認識している

**問**

「その他の質問」

**問** 吉野川市観光協会の再設立は。再設立する予定はないが、観光客等の増加に努める。

**問** ふるさと納税について令和7年度の実績見込みは。現在の好調な推移が続けば、寄付総額は1億2000万円に迫る見込みである。

**問**

令和10年度までに15人を目標とし、継続的に募集をする。

**問** 駅前イベント広場指定管理者によるマルシェの運営は。事業計画書の中で提案していただければ実施可能と考える。

**問** 空き店舗対策は。商業地域活性化支援事業や移住創業支援事業を実施している。

**問**

窓口時間短縮の考えは。職員の働き方改革につながるよう取り組んでいく。

**答**

職員の働き方改革につながるよう取り組んでいく。



お 敏 夫  
と 敏 夫  
戸 出

**答**

**問**

認知症分野においての現状と課題についてどのように認識しているか  
認知症の方々をはじめ、高齢者を支える支援体制の整備に取り組んでいく

**問** 国は、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築を進めている。また、認知症分野においても介護するだけでなく、本人が希望を持って暮らし続けられる、共生した地域づくりが重視されている。

**答** 具体的な取り組みとして、認知症サポーター養成講座や「チームオレンジ」の活動を通じて、地域の支援体制構築に寄与している。また、令和8年度から新規事業として、市内の43カ所で行っている介護予防教室に脳体力トレーナー「コグエポ」を導入し、認知機能のチェックとトレーニングを行うことでいく予定としている。この「コグエポ」でトレーニングを行うことにより、認知症の予防や早期発見につなげるとともに、脳機能の維持・向上を促すだけでなく、地域住民の健康増進にもつながる可能性を持っている。このような取り組みを通じて、地域包括ケアシステムの深化が図られ、尊厳を保持

し、生活への希望を持ち続けるための環境がさらに整備されることが期待される。今後も、認知症の方々をはじめ、高齢者を支える支援体制の整備に取り組んでいく。

**【その他の質問】**

**問** 深刻な人口減少の中、その対策の一つが移住促進である。移住促進施策の今後の方向性は。

**答** 「ひとの定住・環流・移住の新しい流れをつくる」ことを目標に移住促進施策を計画的に推進している。今後は転入促進と転出抑制を目指し国・県とも連携を図りながら取り組んでいく。

**問** 南海トラフ地震への備えとして、高齢化社会に対応した防災対策を急ぐ必要がある。地域防災計画の見直しは。

**答** 高齢化に伴う要配慮者の増加が見込まれるため、避難行動要支援者への支援体制の確保等を体系的に整理し、市地域防災計画の見直しを進めている。



お 光 男  
み つ 男  
岡 田

**答**

**問**

重点支援地方交付金を活用した物価高対策は  
重点支援地方交付金を活用した物価高対策は  
1万2000円分のクーポン券を市民全員に配布する

**問** 重点支援地方交付金を活用した本市の物価高対策は。前回の2.4倍となる一人あたり1万2000円分のクーポン券を市民全員に配布し、生活者と事業者双方を力強く支援できるものと考えている。

**答** 小中学校の学校給食費と18歳までの子どもはぐくみ医療費助成事業の完全無償化を現在の物価高騰に鑑み、学校給食費は本年2月から、子どもはぐくみ医療費助成事業は、本年10月診療分からスタートし、令和9年度以降も継続して実施する予定である。

強化したい。

**問** 国民健康保険における外国人の加入および医療費の状況は。

**答** 加入状況は84名、67世帯で被保険者数の1.21%、総医療費では0.17%を占めている。

**問** 多文化共生社会についての考えは。

**答** 互いに尊敬し、安心して暮らすことのできる共生社会の実現に向けて、しっかりと取り組む。

**問** 捕獲鳥獣をジビエに活用する考えは。

**答** ジビエを使った古民家レストランが牛島地区で計画されており、今後、猟友会との調整や六次産業化補助金交付等のサポートを行いながら、事業成功を後押しする。

**問** 子どもはぐくみ医療費助成事業はどの医療機関を受診しても無償なのか。

**答** 県外の医療機関を受診された場合は、一旦、窓口で立替払いをしていただき、後日償還する。

**【その他の質問】**

**問** 特定健診の結果の特徴と保健指導の進め方は。

**答** 糖尿病リスクが高い人が多い状況であり、保健指導などを

# 旬感 よしのがわ

春のやわらかな空気が心地よい5月。けれど、この季節になるとなぜか気分が沈んだり、やる気が出なかったりするーそんな状態を日本では「5月病」と呼びます。

新生活が始まる4月の緊張感がゴールデンウィーク明けに、ふっと気が緩み、その反動で心身に不調が現れることを指します。4月は「頑張ろう」という気持ちで乗り切れても、5月になると少しずつ疲れが表面化し、連休明けは「また日常に戻るのか」といった心理的な落差も影響します。

そんなときは、「そういう時期もある」と受け止め、無理に元気になるうとしないうほうが、心の負担はぐっと軽くなるはずです。少し立ち止まってしまっても、自然なリズムの一部かもしれません。焦らず自分のペースを取り戻していきましょう。



□に当てはまる言葉は何でしょう。

## クイズ



□ まつり (鴨島町) ひらがなも可

鴨島町上下島村の藍農家出身で、明治から大正にかけて東京浅草で活躍した喜劇役者曾我廻家五九郎(そがのやごくろう)の至芸をたたえ開催されるお祭りです。日々「ごくろうさん」と人々に感謝の気持ちを伝えようという運動として、毎年6月の最終土曜日にJR鴨島駅前で行われています。

● 正解者の中から抽選で10名様に吉野川市の特産品を進呈します。議会事務局まで受け取りにお越しください。

### 応募方法

はがき、またはFAXでクイズの答えと郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号をご記入の上、吉野川市議会事務局までお送りください。応募の際に議会だよりについての感想や、「チョット」といって添えてみませんか。

### 応募先

〒776-8611 吉野川市議会事務局  
TEL(0883)2212241  
FAX(0883)2212242

### 締切日

令和8年6月30日(消印有効)

### チョットと一言

★美郷の梅の花見ウォークを楽しみにしています。去年初めて行って空気がとても清々しく感じました。

(原々ま)

(前回の解答) 「環境」

## あとがき



季節は春から初夏へと移り、爽やかな風と新緑が美しい季節となりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日頃は議会や市政に対して御理解、御協力を賜り誠にありがとうございました。

吉野川市3月議会も令和8年度当初予算を中心に審議され過日閉会の運びとなりました。

特長として、吉野川市環境センターが完成したこと

により予算規模は前年より縮小されましたが、市民の暮らしに寄りそった施策の更なる充実が図られました。この声を絶やすことのないよう日々努力を惜しむものではございません。

合併から20年の節目を過ぎ、人口は4万8千人をピークに下降を続け、10年後には2万人まで減少すると推測されています。

しかし、人口減少による少子高齢化は全国に共通した課題であり、これを「この様な形で克服していくのか」が行政に課せられた責任であると考えます。また、地域の課題として

①買い物をする場所が近くにない②空き家、耕作放棄地が増えている③自治会への未加入や役員のみならず不足により、自治会の存続が危ぶまれている、など市民生活に直結した課題を最近特に耳にします。

この様に「まち」も「人」も時代とともに変わっていきませんが、吉野川市の豊かな自然や人情の温かさなどは変わりません。

そして何よりもこのまちの未来を託す子どもたちの元気な声。私たち大人はどれほどこの声に助けられ、勇気付けられたことが。

この声を絶やすことのないよう日々努力を惜しむものではございません。

枝澤 幹太

【編集委員】

委員長	中西 渉
副委員長	近久 寛
委員	戸出 敏夫
	枝澤 幹太
	菊川 充憲
	岡田 光男